（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3373800386		
法人名	社会福祉法人　千寿福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所　グループホーム百		
所在地	岡山県久米郡美咲町書副１８０－４		
自己評価作成日	平成２７年１１月２７日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3373800386-00&PrefCd=33&VersionCd

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ライフサポート
所在地	岡山市北区南方２丁目１３－１　県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成27年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

御家族，御本人がどこよりも此処で暮らせて良かったと思って頂けるケアを目指し人生の先輩である事を念頭に置き、言葉遣いにも配慮し今、この時を何より大切にと考え、利用者、職員間で気持ちの良い挨拶を交わし、いつも笑顔で接して笑いの絶えない空間作りを心掛け、利用者様中心に関わりをもって出来ることは御自分でして頂き、出来ないことは一緒に行い、自立した生活をして頂きたいと考えています。また、今年度も「ミズ・メシ・クソ・運動」を中心に認知症の周辺症状の緩和に努め、高齢に伴う井体調管理に留意しながら、暖かい季節には完成した裏庭でのティータイムや交流など、野外活動にも力を入れて、より御本人様らしい生活の確立を進めていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

このホームは設立以来11年の歩みの中で利用者に対して健康管理と身体ケアを主体にしっかりケアしてきたと考えられるが、近年には精神的な面に対するケアも加わるよう目標達成計画にも折り込んで職員全員で取り組んでいる。接遇と言うよりは一歩心のケアに踏み込んで、現場でのケアとケアマネージメントまで取り組んでいる姿を見せてくれるようになった。その結果、職員は利用者に接する場面も増え、明るく生き生きとした姿となったと思う。利用者も全体的に笑顔が多く、自分の出来る事に積極的に参加したり、自分で出来る事を増やし、利用者同士のライバル意識も芽生えていたと管理者から教えてくれた。利用者も積極的に話しかけてくれ、笑顔で私たちにも接してくれる人が増えた。職員もバタバタした仕事の姿が消えた。まさに心のケアが浸透し、楽しい利用者達の楽しい生活の場が生まれ出したと思えるホームの出現を見せてもらった。今後のこのホームの更なる進展に期待したい。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関に揚げ、ユニットの特性を活かし情報・意識の共有・統一を図り連携を強化し、出来る事はして頂きながら、いつも側に寄り添い、共感し、今、この時を大切に楽しく笑顔で自立した生活をして頂ける、ケアを心掛けている。	一人で散歩する人、人形を抱いている人、リクライニングで皆の輪に参加している人等、それぞれの立場が尊厳を持って支えられ、「尊厳、ゆっくりしたリズム、出来る事をしてもらう」と言う運営理念が共有、実践されていた。男性利用者は、「ここで皆と仲よう暮らせるのが嬉しい」と話していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れた場所に位置している為地域の方との交流は少ないが隣接する施設とのつきあいも交流と考えて、さやか祭りや、歌声コンサート等の催しに参加したり、見学参加だけでなく、カラオケ大会に参加したり、展示作品を作成するなど積極的に努め、2ユニットの特性を活かし、ユニット間の交流も地域ととらえている	ホームは、集落から遠隔地の高台にあるので、敷地内にある法人の関連3施設と2ユニットG．H間で人事交流や互いの見守りあい、法人施設のお祭りやボランティアによる演芸会等の催しに招かれる等で利用者と職員が一緒にお付き合いを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の運営推進協議会への参加や又、行事などへの地域の方の参加もあり、理解を得ていると考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況を報告しケアーにて困難事例の相談やアドバイスをケアーに生かしている。町職員の参加もあり、年6回の開催を実施している	2ケ月に1回、町職員、家族3～4名、法人施設長、1・2棟管理者が参加し、情報交換や意見交換を行っている。行政からのアドバイスや家族からの質問や要望が出され、サービス向上に活かしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、町内会長、民生委員、愛育委員等地域の代表の参加を求めて、地域の理解と支援を得るために幅広くメンバーが関われる工夫をしたい。そこから、グループホーム独自のボランティアや地域の団体等との交流が発展する可能性が高くなる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進協議会にも町職員の参加もありアドバイスを頂く等して関係を築いている	運営推進会議には毎回、町職員2名が参加し、ホームをよく理解してもらっているので、緊急の課題等相談できる協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師を招いての身体拘束についての研修の実施や施設内研修等を行い、職員間での意識付けを行っている。	リクライニング、車椅子利用者もリビングで利用者の輪の中に溶け込み、自然体で過ごしている。また、毎日、法人の施設構内を一巡する利用者に目印の帽子を着用させ、万全を期して送り出している事例から、一人ひとりの思いを受け止め、抑制しないケアの在り方を見ることができた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会実施時、伝達簿の利用をし情報の共有化をしている。外部講師を招いての研修を実施、機会がある際には、情報を職員間で共有して、虐待が見過ごされることがない様、自分達にあてはまらないか、振り返り注意・防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去利用者様（退所者）には成年後見制度の在籍者もあり職員は概ね理解している。又、外部講師を招いて研修にも参加にて資料あり		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所手続きの際は、説明の時間を設けている。改定時等は、重要事項説明書にて説明し同意を得る等、理解を得ている。（変更事項の際にはその都度同意を得ている）		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会への家族の参加もあり、ご意見箱の設置や年度末には、家族交流会を実施し、利用者様の日常を見て頂く。ケアプラン更新時には、御家族直筆にて記入して頂くよう依頼し、運営に反映させている	家族交流会を年1回開催し、ホームの実態を見せてもらいながら意見交換を行っている。又、暮らしの記録写真を個人別に貼り、居室に置き、来訪時に見てもらう中から意見を聞いている。運営推進会議への参加促進や意見箱の設置により、外部の人に意見や苦情を表せる場を提供している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ケア会議、伝達簿など出来るだけ、職員が意見を言える機会、ツールを設けている。	管理者は、毎月の職員会議や担当制にしている職員から個別の情報や意見を積極的に受け入れる姿勢を持っており、リフトの設置、職員体制の充実、ケアの改革、職員間の気付きや指摘事項はその場で解決する等、職員と話し合いながら様々なアイディアを講じて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面会者や御家族より実績に対し労いの言葉を頂いた事を職員に伝えたり、管理者は研修で学んだ「誉める」を実践。職員の労を労らい就業意欲を高めてもらえる様、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修を受ける機会を設け、日々の業務では、お互いに注意しあえる環境作りを念頭に働きながらケアの質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修、近隣施設と交流時などを利用しサービスの向上に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用するに当たり、生活歴、ご要望を伺い御本人・御家族の意向に添えるようなケアプラン作成に努め、サービスを提供するよう努めている。また、個人担当制を行いまず担当の職員との馴染みの関係を築いてよりよいケアが出来る様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接や、面会時を利用し御家族の思いを伺いケアプランを作成し更新時は、1表に御家族に直接希望を記入して頂き、状況変化時にはその都度御家族に報告し連携を図る		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の要望を伺いながら状況に応じて代替えケアの可能性についても話し合いケアの向上に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今この一時を大切に出来る事はして頂きながら、職員と共に役割をもって、笑顔の絶えない楽しい自立した生活が出来る様、支援させて頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時、面会時等の機会には利用者様の日常についての報告や状況変化時には、迅速な報告を心掛け、御家族と受診に行くなど要望に添えるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族、利用者様との信頼関係の構築を基本に、ご友人等の面会もあるが、施設入所で少し距離も出てきている為、職員との個人担当制を採用し、まず職員との馴染みの関係を構築し、安心して生活して頂ける様、心掛けている。	同一法人施設に定期的に訪れるボランティアと馴染んだり、行事に招待され利用者と職員が参加して一緒に楽しむことで馴染みの関係が発展していけるように、行事への参加を大切にしている。自宅が隣同士だったという男性利用者に、「二人でようお酒を呑んどったんじゃなあ」と馴染みの関係を想起させる会話があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を理解し気の合う人同志の席を近づけたり困難な方には職員が関係を築ける様配慮している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者死去という形での終了の為、契約終了後、御家族と交流まではいかないが、他利用者様と、思い出話等の会話を通してご本人様をしのぶことあり。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添える様、御家族、面会者等からの情報収集や職員間の情報の共有、関係性の強化に努め、より深いアセスメントが出来る様、心掛けている。	管理者は介護職を兼務しながら利用者に日常的に接しており、担当職員と情報を共有し、思いや意向の把握に努めている。「出来る事は言うてくれたら何でもするで、家でもしとったから」と意向欄に直筆で書いてあり、職員はその思いを基本に置き、日常の行動や表情から汲み取る様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や御家族へ経歴を尋ねたり利用者様との会話の中で把握に努めたりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時のバイタルチェックの実施、入浴時の全身観察を通して、身体状況把握に努め、体調管理を行い、変化時の早期発見につながる様、心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族様の希望を伺いながら生活の質の向上につながるプラン作成を心掛け、特に御家族には職員に遠慮され「特にありません」と言われる事も多い為、プランを送る際、御家族の欄を白紙にして、御家族様の言葉で記入して頂ける様、試みている。	管理者と担当職員が利用者の日常の暮らしの中から情報を共有し、家族の意向を直筆で書いてもらい、これらを反映させながら介護計画作成をしている。家族の率直な思いを受け取れる事や感謝の言葉は職員の働く意欲にもつながり、「プランニングにもよく反映されるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子、状態の変化等の記録などにより情報の共有を図り見直しにつなげている。また、重要、緊急性のある情報は伝達簿への記入を行いより早く、職員間での共有が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、御家族と連携を図り柔軟な対応を心掛け、出来る限りのご要望に添える様取り組んでいる		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進協議会にて地域との交流に付いての検討をしたり避難訓練等の実施により安全な暮らしや訪問理美容等のサービスの利用をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、御家族と連携を取りながらかかりつけ医との連携を築き、医療を受けれるよう支援する。又、受診結果の情報は受診ノートに記録し、緊急性のあること、薬の変更などは、伝達簿にも記入し、情報の共有が早く出来る様、心掛けている。	G. Hが町の中心地から遠隔地にあるため、家族の便宜性の面で家族の希望により、入所と同時に全員が協力医を主治医としている。毎週1回の往診と障害者施設の往診日にも立ち寄って全員の顔を見せてもらっているので、利用者、家族、職員共に安心できている。専門病院受診はホームが対応し、主治医や関係者との連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の健康管理や状態の変化に応じられる支援を実施し協力医療機関による受診、1／Wの嘱託医による往診の他、週3～4回は様子を伺いに来所あり、また1／Wの訪問看護体制等を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	主治医との連携を図り，病院も相談に応じて下さり早期の入退院も考慮して頂ける関係づくりを整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要でない場合は出来る限りここで暮らして頂ける様に重度化、看取りに対するマニュアルがあり、入所前の説明時や契約時に御家族には説明をしている	毎日の医療行為が必要になった時点でラインを引き、看取りのマニュアルにより職員間で意識の統一を図っている。主治医の判断によるところであり、今迄に看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えての勉強会（救急蘇生法）の実施やマニュアルあり		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の作成や敷地内3施設合同訓練、隣接する施設との協力体制、消防団を交えての会議（協力体制、ライフライン断切時等）夜間職員1人体制の為、緊急時は勝手口から応援に来れる様、鍵を預ける相互連携、協力体制が出来ている。	町の中心地から遠隔地に置かれた環境を考慮し、障害者施設からの協力が実際に得られるように種々の対策を運営推進会議でもよく協議し、一緒に訓練を行なう等して協力体制を築いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重し、尊厳を守り、誇りやプライバシーを傷つけることのない言葉がけを心掛け、今この時を大切に楽しんで頂ける様支援している。	ホームでは、日常の暮らしの中で一人ひとりが尊厳ある姿を具体的に表せるように絵の上手な人の作品をリビングに展示して誇りを称えたり、元気な人の単独行動（散歩）を支援したり、几帳面な洗濯物の畳み方を称える等、利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	楽しみや生き甲斐となるような役割を持って頂きその日の気分や体調に合わせ対応を実施		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく、お一人お一人がその人らしく日々を暮らして頂ける様、個別支援を大切にコミュニケーションや声掛け、レクリエーションなど多く関わりを持って笑顔あふれる日々を暮らして頂ける様、心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等衣類の選択や理美容院の利用時の希望等を伺いおしゃれ、衛生面の注意を図る		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は家庭でしている様に冷蔵庫の中のものでメニューを考え、利用者の方にも、食時前のテーブル拭き等の役割を持って頂き、1棟・2棟合同の食事会、外での食事や、旬の物の取り入れや、好みの物、希望、物の購入や行事等に応じたメニューの提供を心掛けている	ホームで3食を職員当番制で調理している。自立で摂食が不自由な人に対しても職員は側に座わり、空いた食器を並べ替えたり、そっとスプーンに乗せてあげたりして自分で口に持っていき食べられるようサポートに徹しているので、利用者はゆっくりと食事を楽しんでいる。行事食や外食は皆で同じものを食べて楽しむというメリハリを持たせている。	ホームの特性を踏まえて利用者と一緒に食卓を囲んで同じものを楽しく食べる環境作りと、味、食感、量の確認と検食の意味合いを含めて職員も利用者と一緒に食べる工夫を提案してみたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「ミズ・メシ・クソ」を念頭に1日1500カロリー、1500CCを目標として、1日の摂取量をチェック表に記録し把握する。毎月の体重測定を参考に体調に応じ提供している。特に水分は不足しがちな為、季節に応じた温度の物、種類などにも配慮し、飲んで頂く様心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア・就寝時の義歯消毒を実施し能力に応じたケアや歯科医による口腔ケアの実施		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により状態把握し個々にあった方法を考慮し対応し、下剤服用時や夜間のみ紙パンツ使用するなど御本人様の自尊心を大切にして車椅子利用の方も、パットは使用しているが、トイレでの排泄を目指し、気持ちの良い暮らしができるよう支援している。	トイレでの排泄が出来るということは、生きる意欲や自信の回復、食や睡眠等の身体機能の向上に繋がる大切な支援として27年度のケアの中心に置き、一人ひとりに適した対応策を協議して支援を行っている。。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷たい牛乳摂取や、入浴後のお茶提供、レク後にお茶を勧めるなど機会をとらえて声掛けし、水分をしっかり摂取して、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	H24.11.1より業務変更となり毎日の入浴、夜間入浴は実施していないが、週3回の入浴、入浴をされない方の全更衣・下清拭を実施し、リフト設置により、車椅子等の利用者様も、浴槽へ入浴可能となった。	車椅子利用者にもリフトを利用し、全員が湯船でゆっくりと楽しんでいる。職員体制の充実が実現し、必要あれば二人で対応出来るので利用者も職員も安心、安全を確保し、くつろいで入浴してもらっている。一対一のコミュニケーションも大切にして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時等その時々に合わせ臥床したり、夜間眠れない利用者様には日中しっかり起きて頂く様声掛けし良眠につながる支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個々のファイルを作成し、受診時や緊急時に使用し、変化時はその都度伝達簿を利用し申し送りにて理解している 又与薬ミスの無い様重複チェックの仕組みを実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝は、数人でおしゃべりしながら、洗濯物を畳んで頂いたり、それぞれの方の生き甲斐楽しみとなるような役割を持って頂いたり好きなテレビ番組を見たり、レクで歌やことわざカルタや、季節に応じた、折り紙を折って、掲示板をに飾るなどして頂き気分転換を図る。（催し、イベントへの積極的参加）		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化により、外出は困難な方も多い為、1棟2棟合同で外にテントを設置し、外での食事を楽しんで頂いたり、2棟の方では11月に紅葉がりに、御家族・職員と出掛けるなど支援している。又、庭の整備も完了しベンチ・テーブルを配し、暖かい季節や、天候の良い日は庭に出てお茶を飲んだり、風に当たるなど、外での活動も取り入れていきたい。	ホームの周辺は、関連法人施設の広い敷地と、別法人の障害者施設が小高い山の中腹にあり、良い季節には気軽に散歩出来る環境にある。管理者がホームの庭を整地してベンチとテーブルの設置が完成した。「こんどお昼にお握りを作ってあそこで食べようか」と提案していた。また、「気分転換やストレス発散の機会として少しでも外出のチャンスを多く作ってあげたい」と意欲を語っていた。	2つのユニットの利用者の交流もあるようだが、このユニットの庭をホーム全体で活用して18人の利用者が楽しめる機会を考えてもらいたいと願う。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為、所持は困難だが個別対応にて購入希望により食材買い出し時に購入し、預かっている所持金よりの支払いもある。（所持しないと不安と思われる利用者様の方には、御家族了解（紛失等）のもと所持して頂き、担当が時々チェックを行っている）		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在利用者様手紙を書く事はあまり無いが御家族の面会はよくあり遠方の御家族とは電話にて連絡をしている又会話困難者には職員が状況報告をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、入浴等、カーテン等で仕切りプライバシーにおいて十分な配慮を行う。又、季節ごとに行事（クリスマス会）等に参加したり、フロアに季節感（飾り・絵）を採りいれている。温度計に注意しながら、それぞれの場所（浴室、居室、ホール）で快適な空間が提供できるよう、空調管理を行っている。	利用者が若い頃に書いたという立派な額入りの2点の絵が掲げられ、大型ソファが居心地良く配置され、少し古くなった建物は落着きを感じさせている。近くクリスマス会があるために天井に装飾品が飾られていた。季節毎の雰囲気つくりや空調管理が整っており、職員がいつも笑顔で側に寄り添っているリビングの雰囲気は、何物にも替え難い居心地の良さを感じた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後は、ソファー等でくつろいで頂くなど、お一人お一人に対し、ゆっくりとした空間の提供に努め、どうしても相性の悪い方達がトラブルにならないよう、席の配慮や職員が間に入るなど、予防に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	曾孫様の写真や予定を書き込むカレンダーの掲示をしたり、レク等で作成した作品を展示するなどしているご自分のタンスの持ち込み等あり。（冬季は個別に必要に応じ、御家族と相談の上加湿器の設置）	ベッドと小型のタンスが備え付けてあり、必要な人は家族が加湿器を設置している。季節毎に衣類を入れ替え、担当職員と家族、、利用者が一緒に部屋作りをしている。自分のタンスを持ち込んだり、自分の作品を飾る等、馴染みの物を活かしてその人らしく過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	１日中居室対応者の方は、細めな職員の訪室やホールで過ごす事が多い利用者様の方も職員とのコミュニケーションを第1にいつでも側にいるという安全・安心して頂ける環境づくりを心掛けている。		